鹿児島大学教育学部代用附属　鹿児島市立伊敷中学校　学校だより（令和２年度 第９号）

常盤の翠

志・寛・錬

発 行
令和2年9月4日
鹿児島市立伊敷中学校

「伝統」と「創造」の学期に

校長　河瀬　雅之

新学期早々大型台風の洗礼を受けましたが、自宅等への被害はなかったでしょうか。学校では、台風のコース等から吹き返しの影響を考慮し、生徒を早めに下校させたところです。今週末からまた今回以上に台風の影響を受けそうですが、ご家庭でも早めの備えをお願いします。

さて、いつもより短めの夏休みも終わり、学校も実りの時期を迎えました。二学期は「体育大会」「文化祭」「修学旅行」に「集団宿泊学習」等、子供たちが楽しみにしている行事も盛りだくさんですが、コロナに上手に対応できるよう、安全第一に知恵を出し、学校教育の充実を図っていきたいと思います。今後もご家庭には、その時その時の状況に応じた学校の考えを説明し、時にはアンケート等でご意見をいただきながら判断してまいりたいと考えています。

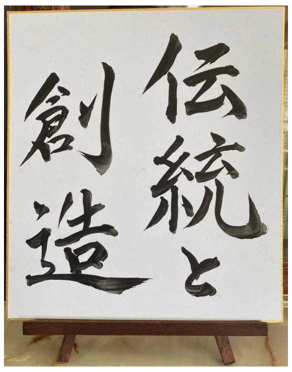
生徒には、始業式の講話で、２学期を実りあるものとするために「伝統」と「創造」を意識した生活を送るよう話しをしました。伊敷中には他校にはない素晴らしい伝統がありますが、その伝統を大切にしながら、真摯に取り組む生徒の姿をいつも頼もしく感じています。しかし今は、オリンピックやパラリンピック、鹿児島国体などのビッグイベントだけでなく、生徒の教育活動にも様々な影響が出てきており、伊敷中の伝統を守ることそのものが危うくなってきています。今後予定されている２学期の行事も、例年通りの実施は難しいでしょう。

そんなときに必要なのが、知恵と工夫です。どう工夫すれば、感染拡大を防ぐことができるのか、知恵を出さなければなりません。知恵と工夫を重ねながら、新しいものを造り出すこと、これが「創造」です。

「伝統」と「創造」は一見真逆なもののようにも思えますが、時代に適応した新しい「伝統」の形を求めることが、今の生徒に課せられた課題であり、そこでの創意工夫、創造が、新たな伊敷中の伝統になっていくのだと思います。そういう意味では、今ここで生活する全ての者が、新しい伊敷中の在り方を提案する「創造者」といえるのではないでしょうか。

一学期は、多くのことが中止になっていく無念を感じました。二学期は「あれもこれもできなくて残念」「制限が多すぎて残念」を乗り越え、「こんな工夫で、こんな素晴らしい行事、生活が実現できた。」そんな学期にしていきたいと思います。「伝統」と「創造」をキーワードに、教師、生徒、そして保護者が知恵を働かせながら、実り多き学期を作り上げていきましょう。

保護者の皆様二学期もどうぞよろしくお願いいたします。



リーダー研修会

８月25日(火)，生徒会役員，１・２年生の後期代議委員や生徒会役員候補者を対象に，生徒会の伝統を受け継ぎ，さらに発展させるために必要なリーダーとしての資質を養うことを目的としたリーダー研修会を実施しました。

研修会では，話し合いに必要な話す力・聞く力・話し合う力について学んだり，活動を振り返りながら改善していくことの大切さを学んだりしました。

今回の学びを学級等での実践に生かし，リーダーとしての資質をさらに向上させてほしいです。

応援団がめざすもの

８月21日(金)，応援団結団式がありました。応援団の目的は体育大会の成功(質の向上)と団員自身の成長(人間力の向上)であることを確認するとともに，一生懸命，真剣な姿で臨み，見る人が感動し，周りがついてきたくなる応援を目指そうと誓い合いました。

応援団の練習は夏休みの後半から始まり，暑い中，熱中症対策と新型コロナウイルス感染症対策を両立させながらの練習となっています。

全体練習初日，白組応援団長山口大佑君，赤組応援団長浜田颯介君は，応援にかける思いを全校生徒に熱く語っていました。また，両名は，応援団の目標は「体育大会の大成功」であることを力強く述べてくれました。

お知らせ

地域の方から学校教育に生かして欲しいと，５万円のご寄付を頂きました。頂いたご寄付は，音楽コンクールＤＶＤ制作費として使用させていただいたことを保護者の皆様にお知らせします。

学校評価のアンケートから見えてきたこと

１学期末に実施した,学校評価のアンケートでは生徒47項目，保護者22項目，職員91項目の調査を行いました。調査にご協力いただきありがとうございました。

このアンケートは皆様の思いをつかみ，本校の課題を明らかにするためのものです。アンケートは，④ほんとうにそう思う③だいたいそう思う②あまりそう思わない①まったくそう思わないの４段階で行い，全項目の平均は生徒3.29，保護者3.01と概ね満足しているという結果でした。しかしこれは平均値であり，全ての皆様の声とは捉えていません。たとえ少数でも，満足度の低い内容があれば，その理由を明らかにし，改善に努める必要があると思っています。

保護者調査の結果で特徴的な内容

【評価の高かった内容】 3.1以上	
学校は経営方針を分かりやすく伝えている	3.14
学校は学校の様子をよく伝えている	3.31
学校はいつもきれいである	3.40
子は社会のルールを守っている	3.29
子は感染症対策に気をつけている	3.21
【やや評価が低かった内容】	
学校は親の願いを聞く機会を設けている	2.87
学校は子の個性を生かした指導をしている	2.89
宿題の量や内容は適切である	2.88
子は家庭学習に意欲的に取り組んでいる	2.75
【評価が低かった内容】 2.5未満	
子供は意欲的に読書に取り組んでいる	2.37

保護者調査の結果で特徴的な内容（右上参照）を見てみますと,「学校は学校だよりや学年通信，学級通信，あるいはホームページなどで学校の様子や考えを分かりやすく説明している」と捉えられている一方,「親の願いを聞く機会や，子供一人一人の個性を伸ばす対応」には満足しているとはいえないという実態が読み取れます。コロナ禍で直接説明したり，ご意見を聞いたりする機会が十分でなかったとはいえ，結果を真摯に受け止め，ご意見を取り入れる工夫をしていきたいと思います。

また，今回は，昨年までと異なり，生徒，保護者，教師，三者共通の評価項目を設定し，それぞれの評価を比較できるようにしました。その中で,「宿題の量や内容は適切か」という点については，三者とも課題ありという評価結果になりました。この点については，小学校とも連携しながら，子供たちの学びが個々の課題解決につながるよう，効果的な宿題の在り方について工夫してまいります。ご家庭でも，子供の学びの環境作り，温かい励ましの声かけ等をよろしくお願いいたします。なお，三者評価比較の全体像については裏面に掲載しますのでご参考にされてください。

今回，いただきました貴重な意見を参考にしながら，これからのよりよい学校作りに生かし,職員一丸となって取り組んでまいりたいと思いますので,2学期もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。